

香川大学の第4期中期計画期間(R4~9年度)に附属学校に求められること

◎学部・研究科との緊密な連携の下に、高松・坂出の2地区にある附属学校園の強みと特色を生かした先導的な教育・研究活動を推進するとともに、地域の教育力向上に貢献する機能及び教育実習・研修機関としての機能を強化する。

○附属坂出学園は、幼小中が一貫性・連続性をもちながら、主体的な学びや発達支援の視点から教育・研究の充実を図るとともに、地域の教育力向上に貢献する機能及び教員養成・研修機能を強化する。

I 本校の教育目標

学びをつくる子供の育成

めざす子供像

- 自主・自律:心も体もたくましく、自ら積極的に人ものことと関わり、自己を振り返り磨き続ける子供
- 共生・協働:仲間と共に生き、自他や地域を大切にし、進んで誰かの役に立とうとする子供
- 探究・創造:学びを生かし、様々な分野について探究する中で、よりよい生き方を創造していく子供

学級数12 児童数409名



子供理解に立って

附属坂出小学校の職員として



- ・歴史と伝統を受け継ぎ、実践研究に全力を傾け、**地域の教育力向上**に貢献する。
- ・大学、学部と連携し、教育実習等の使命を果たす。
- ・附属坂出学園として、一貫した教育を推進する。
- ・**「働きがい改革」の推進者となり実践を行い、先駆者としての役割を果たす。**

校長1 副校長1 主幹教諭1 教諭15 養護教諭1 非常勤講師2(副担1 ALT1) 支援員1 事務4 栄養士1 教員支援1 用務1 SC2 SSW1 計32名

II 特色ある教育活動 (8つのプラン)

1 研究活動の充実

- ①地域の教育課題に応える分かりやすい実践研究の推進
- ②**共に学びを進め合う「共調整学習」**に視点を当て、特別支援教育や発達障害等の実態に応じた支援、ICT活用教育の推進
- ③幼小接続の共同研究 (子供理解、環境の調整)
- ④小中一貫の共同研究の推進(教科教育の充実)
- ⑤**共生社会の担い手を育む教育の推進(子供、教師、保護者)**
- ⑥効果の発信と活用状況の把握
 - ・研究授業・研究会・自主研授業を公開(理数の日など)
 - ・HP、Instagram、研究だより、**プレス**での広報活動
- ⑦学部教員との共同研究や科研費申請・採択の推進
- ⑧**授業づくりワークショップを基に、公立学校教員とのつながりや人脈づくりを行い、日常的に研修できる場と時間を提供**

2 大学・学部との連携強化

- ①教員養成の核となる教育実習の充実
 - ・将来の教育界を担う学生に教員のやりがいを伝え、指導力の育成
- ②教職大学院実習生の受け入れ
- ③特別教育実習の充実(市内公立校との連携の強化)
- ④インターンシップ型実習の推進
 - ・2回生の学生ボランティア
 - ・特別支援教育専攻の学生による通級指導
- ⑤医学部臨床コースとの協働と実習

3 附属坂出学園としての一貫した教育

- ①12年間の学習観「主体的に意味を作り出していくプロセス」に基づく一貫した教育の推進
- ②インクルーシブな学校文化の醸成(配慮と工夫)
- ③附属型コミュニティースクールの実施と教育人材開発
- ④特別支援学校との継続交流(4年生)

4 県教委・公立学校への支援

- ①指導助言:坂綾小研、公立校現職教育等②香小研各教科部会等の研究・運営の推進③**県センター、中堅研修にて指導・助言**
- ④坂綾校長会研修会にて、研究に対する意見交流の場とする。⑤ワークショップ等、授業づくりの実践・提案

5 豊かな心をはぐむ体制づくり

- ①子供の意欲を重視しながら、あいさつと清掃態度の向上 (「当たり前のことを 当たり前にする」心の育成)
- ②トラブル予防の徹底と問題状況への迅速な対応 (事実確認、報告、**迅速かつ適切に対応**)
- ③個を大切にされた学級経営の充実 (ルールとリレーションの同時確立、「先生聞いてカード」の実施、共感的理解)
- ④いいところさがし文化の醸成 (リフレーミングの活用 : 「気付き・考え・実行する」子供の育成へ)
- ⑤12年間の教育相談体制の充実 (心の支援部との連携)
- ⑥インクルーシブな学校体制づくり (相談しやすい環境づくり、居場所づくり「リラックスルーム」)

6 子供を育てる行事、環境づくり、安全衛生

- ①体育的行事(運動会等)、文化的行事(附小フェスタ等) ②スマイルサポーターズ等の協力(読み聞かせ、家庭科、立哨、JR親の会等) ③**月1回の児童会活動、日常的な縦割交流** ④登下校の安全確保・マナーの向上 ⑤**危機管理意識の向上**

7 改善に生かす評価、効率的学校運営

- ①成果と改善案が見えるボトムアップによる学校評価と教員として質を上げるための目標申告の実施(年2回)
- ②働き方改革の推進(超過勤務時間月45時間以内、年間360時間以内を目安、行事の**見直し・削減**、教員支援員の配置)
- ③職員の心身両面での健康推進
- ④校務や教育にICTを活用(**会議等の取組:事前周知・要点を絞った説明**、メールでの欠席連絡、**説明会**や周知会のオンライン化、PC端末を活用した「先生聞いてカード」)
- ⑤時数見直しによる授業時数の削減と緩やかな学期始めと終わり